

黒崎播磨株式会社 2019年3月期第2四半期決算説明会 質疑応答集

この質疑応答は、11月29日（木）に開催したアナリスト・機関投資家向け決算説明会にて、ご出席の皆様からいただいた主なご質問をまとめたものです。理解促進のため、一部内容の加筆修正を行っています。

Q 1. 直近でのマグネシアの価格動向と、国内・海外での価格転嫁はどうなっているか。

A 1. 中国マグネシア鉱山での生産は未だに制限されているようですが、値動きは比較的安定してきており、今後はマグネシア価格の上昇も落ち着くと期待しています。引き続き国内外とも顧客との適正な価格設定に努めたいと考えています。

Q 2. コストの上昇分は販売価格に転嫁しているようだが、昨年の決算説明会資料では原料・為替影響に対して値上げ幅が少ない。その部分については今年も取り返していないようであり、更なる価格転嫁を行ってもよいのではないか。

A 2. 販売価格の交渉は基本的に半年毎に行っているため、原料価格の上昇と販売価格への反映に最大半年分のタイムラグが生じます。原料価格の上昇が落ち着いてくれば、そのタイムラグ分についても解消していく見込みです。

Q 3. 半導体業界の景気は踊り場という話もあったが、下期対上期で見ると売上高等は若干のマイナスになっている。通期で見た場合昨年比マイナスもあり得るのか。

A 3. 景気は踊り場といつつ当社の受注状況は非常に順調です。しかし当社の生産能力が逼迫して注文に対応仕切れていない状況であり、能力増強投資等も実行中です。投資効果発現を急ぎ、今年度も前年以上の成績を目指します。

Q 4. 中国の鉄鋼価格が下落し始めているが、耐火物業界への影響はどうか。

A 4. 数年前の中国による鉄鋼過剰生産の際は中国鉄鋼業界も赤字に苦しんだ上に、安価な中国鉄鋼が世界中に流出して各国の鉄鋼業界に打撃を与え、世界的に非難を浴びました。その前例もあるので基本的には中国国内で生産調整をして対応すると思っています。ただし、中国国外に流出してきた場合には、前回同様世界的に鉄鋼市況が下落し、日本の鉄鋼業界にも悪影響があると見こまれるため、耐火物業界への影響について注視していきます。

以上